



ホストファミリーとのハイキング

法学部			
や	る	気	
応	vol.125	援	
奨	学	金	

Report

ポートランドのまちづくりについて学ぶ

法学部国際企業関係法学科2年 八^や^{くわ} あゆみ
(山形県立新庄北高校)

応募した思い

私が「やる気応援奨学金」に応募した理由は、まず、自分の英語力を向上させたかったからです。そして、日本とは違う価値観や文化に触れ、将来につながる経験をしたと思います。もう一つの理由は、まちを活性化させるための方法を学びたいという思いがあったからです。今日、日本では多くの地域が人口減少やつながりの希薄化などの問題を抱えています。私は山形県の地方出身であり、両親は小学校の教員をしているため、小学校のクラスの人数が減少し急激に小学校が合併していく現状を身近に感じていました。更に、地元の新庄市は相次ぐ公共事業により、一時期財政破綻の危機に直面していました。いかに地域のコミュニティを守るができるのか、まちの存続のために自治体はどのような対応をするべきなのか。その答えを模索したいという思いから、地域活性化やまちづくりについて興味を持つようになりました。そして今回、日本のまちづくりについて勉強するためにも、海外ではどのようなまちづくりをしているのか、視野を広げてみたいという思いから、「やる気応援奨学金」に応募しようと考えました。そして、全米で一番

住みやすいと呼ばれ、魅力ある都市形成やコミュニティを持っているポートランドに飛び立とうと決めました。

語学学校での学び

私はKaplan International English in Portlandという語学学校に通いました。そこにはさまざまな国籍の人がおり、英語で積極的に発言したりコミュニケーションをとったりしていました。その姿に刺激を受け、自分なりに頑張りましたが、うまく英語で表現できなかったことが多くあり、語学力の大切さを身に染みて感じました。これからは、語学の勉強を継続しつつ、大学での学びを大切にしていきたいです。

ポートランドの魅力

ポートランドは、アメリカ合衆国オレゴン州北西部マルトノマ群にある人口約60万人の都市です。山や川などの大自然に囲まれており、コンパクトな都市を形成しています。都市の発展と環境のバランスを考えた持続可能なまちづくりを重視しており、路面電車などの公共交通機関も発達していることから、環境に優しい都市全米第1位、世界でも第2位を誇ります。ポートランドはフードカルチャー文化の点でも有名であり、地産地消の考えが染みつ



室内で行われるナイトマーケット



語学学校のみんなど農業ボランティア



コミュニティガーデンでMaitriさんと

いています。更に、「ネイバーフッド・アソシエーション」という組織が各エリアにあり、地域住民が自分たちの課題について話し合い解決方法を議論し実行に移しています。このように、ポートランドは環境や食、コミュニティが発展したクリエイティブなまちを形成しています。特に私は、近隣同士で助け合いながら野菜を育てるコミュニティガーデンと持続可能なまちづくりを行うユニークなPDC（ポートランド市開発局）という機関の役割について、とても魅力的に感じました。

コミュニティガーデン

コミュニティガーデンとは、住民が主体となって自主的に農作物をつくり、緑のつながりを創出する空間のことを言います。私はKaitash Ecovillageというコミュニティガーデンで、その運営を行っているMaitriさんにインタビューをさせていただきました。いつもそこには自然と人が集まって農作業を行い、ミーティングが定期的に開かれ、活発に意見を交換し合っていると聞き、このコミュニティは住民同士のつながりが非常に強いと実感しました。日本では、このようなコミュニティガーデンはごくわずかしか存在しません。しかし、住民主体で作られるコミュニ

ティガーデンはコストや人的負担の削減につながることから行政にとってもメリットがあるため、より一層普及に力を入れるべきだと感じました。問題はさまざまあるとは思いますが、このような人とのつながりや自然の恵みを感じられるコミュニティが今の日本に必要ではないかと思っています。

ユニークな機関「PDC」

PDCとはPortland Development Commissionの略称です。今このPDCが世界中で注目を浴びていることから、そこで働く唯一の日本人である山崎満広さんにお話を伺いました。このPDCは、行政でも企業でもなく、すべての機関や市民の間に入り、皆の理想のまちをつかっていく機関です。新しい建物を造る際はワークショップを開き、PDCが仲介役となって円滑に理想の建物を考えていくと伺いました。20年後30年後のまちはどうあるべきか長い目で見ることを重視し、サステイナブルなまちをつくらうとするPDCの考え方は、日本でも非常に重要なことだと感じました。更に山崎さんは、ポートランドのまちのつくり方を日本にも活かさないかと日本でもさまざまな活動を行っています。山崎さんは日本の課題として、どの地域もそれぞれ

の地域の特性に合ったまちづくりやサポートが必要であり、その地域に住んでいる住民を中心に今その町には何が必要か考えることが重要であるとおっしゃっていました。このようなお話をお聞きできたことは非常に刺激的であり、この経験をきっかけにこれからの日本の地域づくりについて更に勉強に励んでいきたいと感じました。

おわりに

今回「やる気応援奨学金」で留学できたことは私にとって本当に貴重な経験となりました。一からさまざまな機関とコンタクトをとり最後までやり通せたことや、さまざまな人種の人と会話を楽しんだこと、出合いが新しい出会いを呼んだことなど、一つ一つの経験が自分を成長させてくれました。そしてこの留学で学んだことをきっかけに、私は今、日本のコミュニティガーデンと共に食を通したコミュニティをつくらうと精進しているところです。この活動を通して、誰かにとって安心できる居場所ができ、コミュニティガーデンというものが少しでも日本で広がっていったらと願っています。最後になりますが、この度の私の活動を支えてくださった先生方を始めとする皆様に心より感謝申し上げます。